

一般質問

高島市民クラブ 「おかげなまじ」と 「おかげなまじ」は 市民のために



八田 吉喜 議員

問 県政が、耳ざわりがよい「もったいない」の一言で大きく変わろうとしているが、今後、対等の立場で市の行政を進める首長として、知事選の結果をどの様に受け止めているのか。

今後の施政は、「コンサル業者や机上論者が示す戯面によることなく、市民が主人公である高島劇場の脚本家・演出者・監督として、市民の目線に立った施政を権力におもねず執られるのか。

合併前に連合議会で高島病院問題とゴミ焼却炉の新設問題を郡民の声として指摘してきたが、責任逃れの「なすりあい」と「問題解決の先送り」と思しき

が、自分たちの保身のために無理とも思える考えを議員に押し付けた当時の最高責任者の一人として、この事態をどの様に考えているのか。

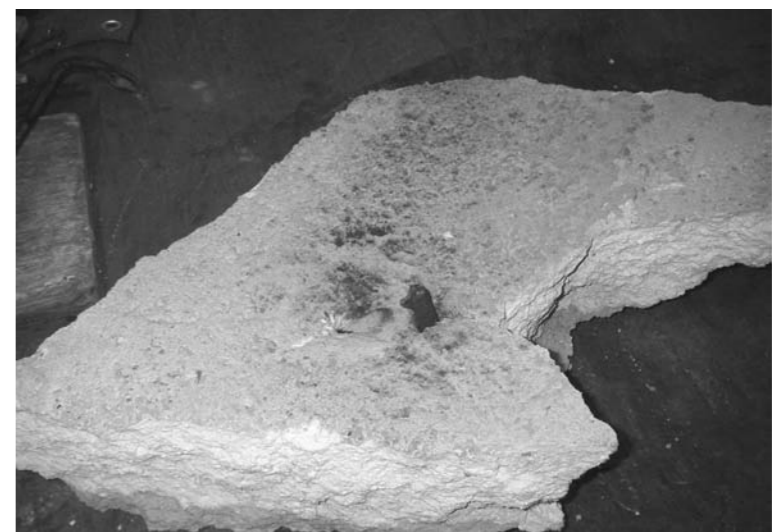
答 市長
市民視点を忘れず市政の進展に邁進します

昨夏の県知事選挙は、県民が潜在的な不満感や県政との距離感から長年琵琶湖や生活文化を研究してこられた嘉田候補に県政の点検を託されたものと認識しています。私も、政治信念によって立つ政治家であると同時に、市民の負託を得て施政をなす行政の責任者として、市民の視点を忘れず、子や孫の世代への責任をとりながら、議会をはじめ市民との対話や共感を基礎に、今後とも市政の進展に邁進いたします。

答 市長
ごみ焼却炉耐火材の剥離問題は、昨年10月以来、その原因究明に努めております。耐火材の耐用年数の規定はありません。今回4年で落下したことについて、他市の状況では、3～5年であり、今後は、耐火材の分析

答 助役
医療制度を踏まえながら病院建替事業に取り組みます

近年の医師や看護師不足をはじめ医療を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況下にあり、市民の期待に充分応えられていない状況は大変残念ですが、決して広域連合時代からの議論を白紙に戻してしまふようなことはありません。現在の厳しい経営環境を踏まえながら病院建替えという所期目標の実現に努力します。



高島市環境センターごみ焼却炉で剥離した耐火材 (50cm×50cm)

答 市長
結果を踏まえ、より耐火材が保つよう耐火材の材質変更を検討します。今回の費用負担についても、早い時期に

災害発生時の初動体制と 機能的な消防団の 確立について



水田 善昭 議員

現下策定中の当市防災計画に基づき職員初動マニュアル作成をはじめ、有事の際の最も有効な機能とされる集落自主防災組織の育成等に努めています。

問 我が国では近年、自然災害による被害が多数報告されており本市においても防災対策の必要性は喫緊の課題であると思えますが、災害発生時の初動体制の確立はどの程度進んでいるのか、又災害時の情報伝達手段の整備と避難施設における障害を持つ人への対応は出来ているのか。以前から要望している防災マップの作成状況はどうなっているのか。今後の見通しも含め市の考え方を問う。

答 消防長
団員の確保は区・自治会への協力依頼の他、処遇改善や機能的な女性団員制度の導入等活性化を検討しています。また、有事の際の招集は携帯電話へのメール配信を考えています。災害に対する機能の充実も必要と考えますが、財政面も考慮し現有装備で団員の知識・技能の習得による資質の向上を図ります。

問 新旭町が利用して来たごみ処分場は、現在不燃物廃棄場として利用している。設置した時点での法規制は適法であったが、現代の法規制や現実の管理能力では、後世に大きな負担を強いることが明白なことから、閉鎖を前提とした処分場の適正処置についてその手段と、資金面での根拠を公表し、協力と理解を求めるべきではないか。



石田 哲 議員

問 市文化財保護手段は

答 産業循環政策部長
閉鎖の方法は、現在の基本計画では、処分場の最下部に鉛直遮水壁を設置し、汚水処理し公共下水道へと考えています。新年度において実施設計を行い、その後工事着手を考えています。財政的には、循環型社会形成推進交付金3分の1が受けられ、補助残に起債充当ができる可能性が高くなっています。この制度の適用は、まだ多くのハードルがあり、新旭地区への説明と理解を得る努力をしていきます。

答 総務部長
初動マニュアル、集落自主防災組織の育成等に努めています。

答 産業循環政策部長
閉鎖の方法は、現在の基本計画では、処分場の最下部に鉛直遮水壁を設置し、汚水処理し公共下水道へと考えています。新年度において実施設計を行い、その後工事着手を考えています。財政的には、循環型社会形成推進交付金3分の1が受けられ、補助残に起債充当ができる可能性が高くなっています。この制度の適用は、まだ多くのハードルがあり、新旭地区への説明と理解を得る努力をしていきます。

答 教育部長
文化財等は旧町村から引継がれた状態で、市内資料館等に分散管理しており、適正な管理、活用を図るうえからミュージアム構想は、体制として必要と感じています。イベントは、本来の業務である調査・保存・管理が適正であることの上になり立つものであり、効果等をしっかりと評価して実施していくことが重要と考えます。